



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月6日

上場会社名 日本山村硝子株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5210 URL <http://www.yamamura.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 幸治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 佐貫 正義 TEL 06-4300-6000  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	54,293	△0.1	△284	—	72	△85.1	5,130	456.9
26年3月期第3四半期	54,365	△1.7	527	△45.0	483	△59.4	921	23.4

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 5,990百万円 (121.8%) 26年3月期第3四半期 2,700百万円 (98.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	48.87	—
26年3月期第3四半期	8.77	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	105,248	58,100	54.7
26年3月期	98,273	52,605	52.9

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 57,594百万円 26年3月期 51,975百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
27年3月期	—	2.50	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	69,500	△3.3	△800	—	△200	—	5,000	—	47.62

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	111,452,494株	26年3月期	111,452,494株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	6,466,231株	26年3月期	6,456,997株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	104,993,418株	26年3月期3Q	105,007,353株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、[添付資料] 2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(2) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による各種経済政策や日本銀行の大規模な金融緩和政策の効果もあり、企業収益環境や雇用・所得環境の改善が続き、緩やかな回復基調が継続しました。しかしながら、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動による個人消費の低迷や、欧州や新興国経済の下振れ懸念等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループでは当連結会計年度より新中期経営計画3ヵ年をスタートさせました。前中期経営計画のビジョンであった「世界のYAMAMURAへ 一心と技術を伝えたい」は継承し、100周年を超えて持続的成長を維持するために、アジアそして世界に誇れる“YAMAMURA”ブランドの確立を目指し、引き続き「事業構造改革」と「企業風土改革」の二つの改革を進めてまいります。

この中期経営計画を着実に実行することにより、山村グループ一体となって早期の業績改善を果たしていく所存であります。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### ①ガラスびん関連事業

ガラスびん関連事業では、国内需要の漸減傾向が続き、業界出荷量が前年同期比4.1%減少した影響もありましたが、秦皇島方圓包装玻璃有限公司（以下、「方圓」という。）を前連結会計年度末に連結子会社化したことによる売上が寄与し、セグメント売上高は35,965百万円（前年同期比5.2%増）と増収となりました。平成25年12月に大阪工場の操業を停止したことにより、当社ガラスびんカンパニーの労務費、減価償却費等のコストの減少はありましたが、国内原燃料価格の上昇や輸送コストが増加したこと、また、方圓の損益改善が遅れたこと等により、セグメント利益は△483百万円（前年同期は354百万円）と損失となりました。

#### ②プラスチック容器関連事業

プラスチック容器関連事業では、平成26年5月13日に公表しましたペットボトル事業からの撤退の影響や、夏場の天候不順等により、当社プラスチックカンパニーの販売は低調に推移しました。海外子会社においては、同様に夏場の天候不順の影響やお客様のプラスチックキャップ内製化により販売が伸びず、セグメント売上高は6,807百万円（前年同期比15.9%減）と減収となりました。減価償却費の減少やあらゆるコスト削減に注力しましたが、原料価格の上昇や販売の減少により生産調整を行った影響等もあり、セグメント利益は△136百万円（前年同期は△98百万円）と損失となりました。

#### ③物流関連事業

物流関連事業では、既存業務の拡大や新規参入の営業活動を行いました。取り扱い物量の減少や収益性の悪い営業所の閉鎖等を行ったため、セグメント売上高は8,377百万円（前年同期比9.6%減）と減収となりました。セグメント利益は人手不足による人件費上昇や商品輸送コストの増加等がありましたが、不採算事業所からの撤退やあらゆるコスト削減を徹底して行った結果、110百万円（前年同期比418.9%増）と増益となりました。

#### ④ニューガラス関連事業

ニューガラス関連事業では、当社ニューガラスカンパニーの、主にスマートフォン向け電子部品用粉末ガラスを中心に出荷が引き続き堅調に推移し、また、山村フォトニクス株式会社も主力製品である光通信部品の出荷が、国内外の旺盛な需要に支えられ伸長しました。その結果、セグメント売上高は3,143百万円（前年同期比10.8%増）と増収となりました。セグメント利益は、生産効率の改善やコスト削減もあり、177百万円（前年同期比314.1%増）と増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は54,293百万円（前年同期比0.1%減）となり、連結営業利益は△284百万円（前年同期は527百万円）と損失となりました。また、持分法による投資利益は427百万円（前年同期比26.6%増）となり、連結経常利益は72百万円（前年同期比85.1%減）となりました。特別利益に平成25年12月に操業を停止した大阪工場の跡地を売却したこと等による固定資産売却益8,212百万円や事業構造改善引当金に計上していた建物解体およびその他整理等にかかる費用を取崩したことによる事業構造改善引当金戻入額1,050百万円等を計上し、特別損失にプラスチック事業の事業構造改革に伴う事業構造改善費用555百万円等を計上した結果、連結四半期純利益は5,130百万円（前年同期比456.9%増）と大幅な増益となりました。

### (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期における通期の業績予想につきましては、当第3四半期までの状況およびその後の経営環境等を勘案して、平成26年11月6日公表の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成27年2月6日）公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）および「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取り扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が129百万円、退職給付に係る負債が74百万円増加し、利益剰余金が35百万円増加しております。

また、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常利益および税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

### (2) 追加情報

#### （固定資産の譲渡）

平成26年9月26日に下記の固定資産の譲渡について取締役会の決議を行い、その同日に売買契約を締結し、譲渡を完了しました。

#### 1. 譲渡の理由

従前ガラスびんの生産工場として操業し、平成25年12月に停止以降は遊休状態にあった固定資産について、経営資源の有効活用による財務体質の改善を図ることを目的に譲渡しました。

#### 2. 譲渡資産の概要

大阪府高槻市芝生町1丁目19番 他

土地（面積：35,654.99㎡）および建物

譲渡価額 8,470百万円

なお、譲渡先と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係、関連当事者として特記すべき事項はありません。

#### 3. 譲渡の日程

平成26年9月26日 取締役会決議、契約締結、物件引渡し

#### 4. 損益に与える影響額

当該固定資産の譲渡に伴い、固定資産売却益8,169百万円を特別利益に計上しました。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,853	15,428
受取手形及び売掛金	19,815	20,772
商品及び製品	7,775	7,001
仕掛品	397	391
原材料及び貯蔵品	2,616	2,533
その他	2,031	1,635
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	41,477	47,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,272	8,304
機械装置及び運搬具（純額）	7,355	6,580
工具、器具及び備品（純額）	708	672
土地	10,471	10,333
建設仮勘定	462	1,988
有形固定資産合計	27,270	27,880
無形固定資産		
のれん	2,048	1,983
その他	1,766	1,889
無形固定資産合計	3,814	3,873
投資その他の資産		
投資有価証券	3,826	4,111
関係会社株式	19,401	20,062
退職給付に係る資産	541	948
その他	1,984	649
貸倒引当金	△43	△29
投資その他の資産合計	25,710	25,742
固定資産合計	56,795	57,496
資産合計	98,273	105,248

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,147	8,545
短期借入金	9,835	9,534
1年内償還予定の社債	—	100
未払法人税等	133	1,736
賞与引当金	478	165
役員賞与引当金	13	15
事業構造改善引当金	1,235	30
資産除去債務	97	—
その他	3,507	4,940
流動負債合計	24,448	25,068
固定負債		
社債	1,000	1,400
長期借入金	15,165	15,577
環境対策引当金	168	155
退職給付に係る負債	3,140	3,028
その他	1,743	1,916
固定負債合計	21,218	22,078
負債合計	45,667	47,147
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	17,300	17,300
利益剰余金	22,093	26,734
自己株式	△1,225	△1,226
株主資本合計	52,243	56,882
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	884	1,111
繰延ヘッジ損益	△102	△123
為替換算調整勘定	△95	609
退職給付に係る調整累計額	△953	△886
その他の包括利益累計額合計	△267	711
少数株主持分	629	506
純資産合計	52,605	58,100
負債純資産合計	98,273	105,248

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	54,365	54,293
売上原価	45,424	45,087
売上総利益	8,941	9,206
販売費及び一般管理費	8,414	9,490
営業利益又は営業損失(△)	527	△284
営業外収益		
受取利息	2	8
受取配当金	63	68
持分法による投資利益	337	427
その他	198	445
営業外収益合計	602	949
営業外費用		
支払利息	250	332
租税公課	90	123
その他	305	137
営業外費用合計	646	593
経常利益	483	72
特別利益		
固定資産売却益	9	8,212
投資有価証券売却益	—	46
特別修繕引当金戻入額	3,541	—
事業構造改善引当金戻入額	—	1,050
資産除去債務戻入益	—	97
特別利益合計	3,551	9,407
特別損失		
固定資産廃棄損	33	109
固定資産売却損	—	3
減損損失	—	169
支払補償金	—	9
事業構造改善費用	2,458	555
事業撤退損	71	—
たな卸資産廃棄損	—	234
その他	—	80
特別損失合計	2,563	1,162
税金等調整前四半期純利益	1,471	8,316
法人税、住民税及び事業税	230	1,776
法人税等調整額	314	1,534
法人税等合計	545	3,310
少数株主損益調整前四半期純利益	926	5,005
少数株主利益又は少数株主損失(△)	4	△125
四半期純利益	921	5,130



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	926	5,005
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	442	228
繰延ヘッジ損益	△57	△20
為替換算調整勘定	106	75
退職給付に係る調整額	—	37
持分法適用会社に対する持分相当額	1,283	664
その他の包括利益合計	1,774	984
四半期包括利益	2,700	5,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,695	6,110
少数株主に係る四半期包括利益	5	△119

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	34,174	8,091	9,263	2,836	54,365	—	54,365
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18	1,102	8,648	4	9,774	△9,774	—
計	34,192	9,193	17,912	2,841	64,140	△9,774	54,365
セグメント利益 又は損失(△)	354	△98	21	42	319	207	527

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額207百万円には、セグメント間取引消去113百万円、その他の調整93百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	合計
減損損失	547	—	611	28	1,186

※上記の減損損失は、四半期連結損益計算書の事業構造改善費用および事業撤退損に含まれております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	35,965	6,807	8,377	3,143	54,293	—	54,293
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	756	8,832	4	9,593	△9,593	—
計	35,965	7,563	17,209	3,148	63,887	△9,593	54,293
セグメント利益 又は損失 (△)	△483	△136	110	177	△331	47	△284

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額47百万円には、セグメント間取引消去113百万円、その他の調整△65百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失 (△) と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	合計
減損損失	—	169	—	—	169